

弾き歌いにおけるコード伴奏の指導研究

—— 保育者養成の授業テキスト作成と指導効果の検討 ——

A Study of an Instructional Method of Chord Accompaniment

—— Effect of the Instruction and a Textbook for Chord Accompaniment in ECEC Teacher Training ——

持田 葉子*

高田 正久**

山内 信子***

要 約

本稿は、保育者養成校におけるコード伴奏による弾き歌い指導と、授業用に担当者が作成したテキストの有用性と課題を検討するものである。テキストは、ハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調、変ロ長調、マイナーコードと合わせて18曲で構成されており、どの曲もまず左手でコードの根音を、右手でメロディを弾きながら歌うことから始め、次第にそれぞれの調の主要3和音のカデンツを用いて、コード伴奏を習得するプロセスを踏んでいる。

2017年度と2018年度に授業を履修した学生にアンケート調査を行った結果、学生は基本的なコード伴奏法を理解した上で一定数の課題曲を習得し、またコード伴奏は歌の伴奏に役立つと捉えていることが明らかとなった。しかし、マイナーコードの習得に難しさを感じており、学生がどこにつまづいているのかを丁寧に把握することが今後の課題となった。

キーワード：弾き歌い、コード伴奏、保育者養成

1. はじめに

保育において、ピアノ伴奏を付けて子どもと一緒に歌を歌う場面では、保育者はピアノを弾きながら子どもに届く声で歌い、また子どもが歌う様子を見ながら、歌声に合わせた伴奏を行うことが望ましい。その実現のためには、弾きながら歌う、鍵盤から目を離して弾く、子どもの声に合わせて音量を調節するといった、ただ楽譜を見てピアノを弾くだけでは留まらない技術が要求される。こうした技術は、ピアノを幼いころから学習している経験者にとっても慣れないうちは難しいが、保育者養成校に入学するまでにピアノの経験年数が少ない初学者にとってはさらに高いハードルとなる。近年、本学でもピアノの経験年数が少ない学生の割合が増加傾向

にあり、保育現場に出るまでの限られた期間に弾き歌いの技術を身に付けるためには、実践的な指導の工夫が必要である。

その工夫の一つに、コード伴奏による弾き歌い指導があげられる。弾き歌いにおけるコード伴奏の利点としては、楽譜に記載されたコードを弾くことによって左手の譜読みが不要になること、基本のコードを覚えれば学習者の演奏技術に応じた伴奏形に変えられるため演奏に余裕ができる、などがあげられる。実際の弾き歌い指導におけるコード伴奏の有用性については、木下(2015)¹⁾、紙屋・後藤(2008)²⁾などの研究においても述べられており、弾き歌い指導においてコード伴奏を取り入れることの意義は大きいと考える。

弾き歌いにおけるコード伴奏指導についての先行

*Yoko MOCHIDA 聖和短期大学

**Masahisa TAKATA 聖和短期大学

***Nobuko YAMAUCHI 聖和短期大学

- 1) 木下和彦 2015 子どものうたの弾き歌い指導におけるコード伴奏の有用性—幼稚園教員養成校の教員及び学生を対象とした質問紙調査を通して—全国大学音楽教育学会創立「30周年記念誌」(研究紀要第26号合併号) pp. 73-82
- 2) 紙屋信義、後藤みゆき 2008 ピアノによる子どもの歌伴奏の効果—アレンジによる伴奏法を考える— 東京未来大学研究紀要第1号 pp. 67-75

研究では、以下のタイプの指導方法が見られる。まず伴奏形については、両手でコードを弾く両手伴奏と、左手でコードを弾き、右手はメロディを弾く左手伴奏とがある。先行研究においては、左手伴奏が主流であるが、両手伴奏に関しては、鎌田 (2005)³⁾ や後藤 (2017)⁴⁾ などの研究がある。後藤 (2017) は、両手伴奏の利点について、「両手伴奏の良さは簡単に弾けることであり、それは子どもたちとコミュニケーションを取りながら歌えることに繋がる。また余裕があることで曲をアレンジし歌詞に合った伴奏を工夫でき、歌で遊ぶことが可能になる。さらに音色にまで意識し奏でることができる。」⁵⁾ と述べており、その利点は注目に値すると思われるが、一方でピアノの助けなしにメロディを歌わなければならないと、歌唱に自信のない学生にとっては、難しい一面もある。

次にコードの弾き方について、先行研究では主に2つの方法が見られた。一つは、左手でコードの基本形と転回形を用いて主要三和音（スリーコード）のカデンツを弾く方法と、もう一つは、コードの転回形は用いずに基本形を中心に進める方法である。前者は、転回形を用いることによって鍵盤上での手の移動が殆どなく、初心者でも弾きやすいという利点があり、またト長調へ長調など調性の変化によってコードが異なっても、決まった手の形で対応することができる。先行研究において最も多く見られ⁶⁾、また伴奏付けテキストでもよく用いられている方法である。一方で、転回形は用いずに基本形のみで進める方法としては、西海・笹井・細田 (2017)⁷⁾ の研究がある。西海らは、この指導方法の利点として、学生が基本形と転回形の違いを混乱しないですみ、主要三和音以外の様々な種類のコードを確実に覚えられること、またカデンツ形式では一度手の形でコードを覚えると、その形でしかコードを弾くことができない傾向にあるが、基本形の場合、基本形をもとに、様々な伴奏パターンを習得できることなどをあげている。

このように、各々のコード伴奏指導には特徴があり、どの方法で行うかはそれぞれの指導方法の特徴をよく理解した上で、学生のピアノ学習経験や授業形態などを考慮して選択する必要があるだろう。

これまでの本学における弾き歌い指導は、基本的には原曲が弾けるようになることを目標とし、それが困難な学生には、簡易伴奏の形に編曲した楽譜を用いていた。またコードの学習は行ってはいたが、両手伴奏による和音進行法に特化した指導であったため、特にピアノ初学者の学生にとっては難しく、弾き歌い伴奏への応用や実践に結びつかない傾向があった。

こうした点を改善するため、特に初学者にとって実践的なコード伴奏の指導となるよう、授業形態を考慮しながら、どのようにコード伴奏の指導を行っていくかを担当者らで検討した。その結果、伴奏形に関しては、弾き歌いの中心は歌であるため、初学者でも自信を持って歌を歌えるよう、右手でメロディを弾く左手伴奏を選択した。またコードの弾き方に関しては、主要三和音（スリーコード）をカデンツで弾く形式を採用した。その理由は、指導形態が Music Laboratory System（ミュージックラボラトリー・システム）（以下、M.L. と記す）を用いた1クラス20名ほどで行う集団指導のため個別指導の時間が少なく、さらに複数の教員がそれぞれのクラスを担当するため、カデンツの型を用いた指導の方が指導内容を統一しやすいと考えたことによる。

また授業では、特に初学者の学生が理解しやすく、授業回数に合わせて効率的かつ効果的に指導を行うためのテキストが必要と考え、担当者らで内容を検討して作成にあたった。

本研究では、この作成したテキストを使用した指導が、学生の弾き歌いにおけるコード伴奏の習得に効果があったのか、特に初学者（本研究では、初学者をピアノ経験が3年未満の者とする）にとっての効果を明らかにするために、2017年度と2018年度に授業を履修した学生に対してアンケート調査を実施

3) 鎌田直美 2015 幼児教育におけるピアノ演奏指導に関する一考察—学生の意識と両手伴奏の試みについて— 近畿大学豊岡短期大学論集(2) pp.67-76

4) 後藤紀子 2017 『保育表現技術』に添えるピアノ指導法の予備的研究：保育者養成校における音楽指導の在り方の提案に向けて 和光大学現代人間学部紀要10巻 pp.77-92

5) 同上書 p.89

6) 例えば最近では、山崎祐子 2017 「スリーコード伴奏法」の導入と成果～豊富なレパートリーのための取り組み 常葉大学短期大学部紀要48号 pp.167-178 など

7) 西海聡子、笹井邦彦、細田淳子 2017 保育者養成における弾き歌いのためのコード伴奏法 東京家政大学研究紀要第57集(1) pp.59-68

し、本テキストを用いた初学者への指導の有用性や課題について検討を行うものである。

2. 授業形態とテキストの内容

2-1 授業形態

授業は、1年次春学期(半期15回)の授業科目「音楽教育法」として開講されている。M.L.教室にて、1クラス20名ほどの学生に対し教員1名の編成で行う。授業は科目担当者が独自に編纂したテキスト「コード伴奏法の基礎」を中心に進めているが、進度に応じて他の音楽関係の授業「音楽I・II」で使っているテキスト(童謡曲集など)も発展課題として使用している。

2-2 テキストの内容

授業の概要としては、始めにM.L.についての説明を行い、テキストに沿って基礎理論、コードネームなどについて学び、授業期間の途中で授業内小テストを2回行っている。

詳細については、最初に音名名称(英語・イタリア語・日本語)を確認し、主に英語での名称を覚える。次に音程(全音・半音)についての学びの後、練習課題を行い確認する。次に楽譜に記載されているアルファベット(コード名)を見ながらその音

(根音)を左手で弾く練習の後、根音を用いた「単音伴奏」の形で、簡単な童謡を両手で弾いてみる。そして、アルファベットを基にしたコードの基本型(三和音)及びメジャーコードとマイナーコードについて学び、その後、練習課題を行う。次に様々な調性(ハ長調・ト長調・ヘ長調・二長調・変ロ長調)での主要三和音とその転回形、カデンツ(コード進行)などについて学び、より確実な習得に向けて、主要三和音を使った弾き歌い練習課題を行う。各練習課題では、メロディとベース音の響きをよく聴き、また歌唱を意識できるよう、ピアノがよく弾ける学生であっても単音伴奏から練習を始める。

以下にハ長調の例を譜例1と譜例2に示す。譜例1は、ハ長調の主要三和音(スリーコード:CFG、G7)の学びである。それぞれのコードの基本形と転回形を学んだ後、カデンツを練習する。G7は、第3音を抜いた省略形で弾く。このカデンツを練習した後、練習課題として譜例2のような弾き歌い曲に取り組む。この練習課題は、以下のように行う。

- ① 歌詞をつけて歌う。
- ② 右手でメロディを弾く。弾きながら歌う。
- ③ 左手でコードの根音を弾く。
- ④ 左手でコードの根音を弾きながら歌う。(単音伴奏)
- ⑤ 右手でメロディ、左手で根音を弾きながら歌う。
- ⑥ 左手でコードの基本形を弾きながら歌う。(コード伴奏)
- ⑦ 左手でカデンツを弾きながら歌う。

ハ長調

伴奏の音を豊かにするために、コードを覚えよう

●ハ長調の主要三和音

C	F	G	G7	←コードネーム
I	IV	V	V7	←和音記号

C ... Iの和音 [ワーク]同じように書いてみよう

基本形 第一転回 第二転回 基本形 第一転回 第二転回

F ... IVの和音 [ワーク]同じように書いてみよう

基本形 第一転回 第二転回 基本形 第一転回 第二転回

G ... Vの和音 G7 ... V7の和音

基本形 第一転回 第二転回 基本形 第一転回 第二転回 第三転回

[ワーク]同じように書いてみよう

基本形 第一転回 第二転回

●ハ長調 主要三和音のコード伴奏(カデンツ)

C	F	C	G	C	C	F	C	G7	C
I	IV	I	V	I	I	IV	I	V7	I
(省略形)									

譜例1 ハ長調の主要三和音(スリーコード)の学習

次に応用課題として左手をマーチなどのリズムで、また右手をスキップのリズムに変奏するなどの

いっぴきの野ねずみ

作詞者不詳
アメリカ民謡

C G C C G C
いっぴきの野ねずみが

C G C C G C
あなたのなかとびこんで

C F C C G7 C
チュ チュチュチュ チュ チュチュ と お お さ わ ぎ

譜例2 ハ長調の練習課題曲

様々な伴奏形

● 4分の4拍子

● 4分の3拍子

● 8分の6拍子

譜例3 様々な伴奏形

アレンジを行う。そして、譜例3に示すように、左手の伴奏形については4拍子のみならず3拍子や6拍子など、様々な拍子に応じた伴奏形についても学び、演奏する。

また授業期間中には他の履修生も聞く形式で2回の「授業内小テスト」を行っているが、それは習熟度の確認や人前での弾き歌いに慣れるためのトレーニングとして行い、定期試験でも同様の形式で行っている。

各調での学びの後、さらにマイナーコードについても学び、メジャーコードとの構成音の違いなどを認識し、練習課題ではメジャーコードをマイナーコードに変えるなどの課題を通して習得し、マイナーコードを含んだ童謡曲の弾き歌いを行う（譜例4および譜例5）。テキストの各ページには、アル

マイナーコード

● 音の違いを聴いてみよう

Cメジャー Cマイナー Aメジャー Aマイナー

Cm *マイナーコードは、英語音名の右下に、mをつけて表記します。

● メジャーコードをマイナーコードにしてみよう

● 次のコードの基本形を左手で弾いてみよう

- ① Cm Fm Gm Dm Em Am Bm
- ② Ebm Bbm Abm Dbm
- ③ A Fm E Gm Am F D Cm
- ④ Dm B C G E Bb Em
- ⑤ Bm Eb Db Abm F Gm

譜例4 マイナーコードの学習

雪のこぼろず

訳詞 村山寿子
外国曲

1. 雪のこぼろず 雪のこぼろず やねにおりた
2. 雪のこぼろず 雪のこぼろず いけにおりた
3. 雪のこぼろず 雪のこぼろず くにおりた

つるりとすべつてかぜにのってきえた
するりともぐつてみんみなきえた
じーっとすわつてみずになつてきえた

譜例5 マイナーコードの練習課題曲

ファベットのみのみでも伴奏付けができるように、練習課題としてメロディーラインの上に、コードネームのみが記載されている弾き歌い楽譜（曲）が載せてある。その練習課題曲は表1に示すように全部で18

表1 テキストの練習課題曲

ハ長調	1	チューリップ	ヘ長調	9	Happy Birthday to You
	2	ちょうちょう		10	ながぐつマーチ
	3	大きな栗の木の下で		11	しあわせなら手をたたこう
	4	いっぴきの野ねずみ		12	手をたたきましょう
	5	むすんでひらいて		13	きらきら星
ト長調	6	水あそび	ニ長調	14	あく手でこんにちは
	7	山の音楽家		15	走るの大好き
	8	アルプス一万尺		16	きよしこの夜
			変ロ長調	17	雪のこぼろず
			マイナーコード	18	アイ・アイ

曲である。

また2018年度のテキストでは、主要三和音の他に、ディミニッシュコードやオーギュメントコードの紹介を行っている。

3. 調査方法

3-1 対象者と方法、調査項目

1) 対象者

2017年度および2018年度保育科1年生(女子のみ)春学期「音楽教育法」の受講者。有効回答者数は2017年度が145名(有効回答率96.0%)、2018年度が147名(有効回答率98.0%)であった。

2) 方法

全15回の授業終了後に無記名の調査用紙を配布し、その場で回収した。倫理的配慮として、調査協力は自由意志であること、記入内容によって不利益が生じることがない旨を調査用紙に明記し、口頭でも説明した。

3) 調査項目

質問内容は「ピアノの経験年数」、「コード伴奏の習得状況」、「コード伴奏を習得する意義」に関する全10項目で、4段階による自己評価(①十分できる②できる③ややできる④できない)により回答を得た。

4. 調査結果と考察

4-1 2017年度の結果

1) 対象者のピアノ経験に関する状況

ピアノ経験年数を以下A~Dの4グループに分類したところ、図1に示す結果となった。A: 未経験15名(10.3%)、B: 3年未満57名(39.3%)、C: 3年以上5年以下35名(24.1%)、D: 6年以上38名(26.2%)

ピアノ経験3年未満の初学者が全体の約半数に上

り、その内訳はAグループ(全くの未経験)の者が1割、Bグループ(ピアノ経験3年未満)の者が4割であった。対して、Dグループ(ピアノ経験6年以上)の者は3割弱であった。なお、本研究においてはピアノ経験3年未満の者(AグループおよびBグループ)を初学者と記す。

2) テキストの習得曲数について

全18曲から成る練習課題のうち、「ほとんど全ての課題を三和音で伴奏し、歌える」ピアノ初学者は、Aグループが10名、Bグループが38名であり、図2に示す通り、初学者全体の7割弱が18曲の全てを習得していた。さらに初学者72名のうち、半数の36名が練習課題を全て終えて、別冊テキストの発展課題にも取り組んでいた。これらから、ピアノ初学者であっても本テキストに掲載している練習課題の殆どを習得していることが明らかとなった。

3) 発展的な学習について

3)-① コードを使った変奏の習得状況

「コードを見て伴奏を変奏(アレンジ)しながら弾き歌いする」ことが「十分できる」「できる」と回答したAグループは1名(6.7%)だったのに対し、Bグループでは15名(26.3%)、Cグループでは14名(40.0%)、さらにDグループでは29名(76.3%)と続いた(図3)。これらから、ピアノの経験年数が短いと「アレンジは難しい」と感じる者が多く、経験年数が長くなるほど「できる」と自覚することが明らかとなった。従って、特に初学者が抵抗なく試せるような指導の工夫が必要であることが分かった。

3)-② マイナーコードの習得状況

さらに、「メジャーコードからマイナーコードに変える」ことが「十分できる」「できる」と回答したのは、初学者においてはわずかAグループ4名(26.7%)、Bグループ14名(24.5%)だったのに対

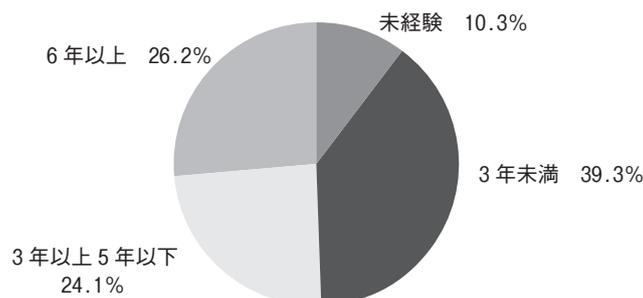


図1 2017年度対象者のピアノ経験年数

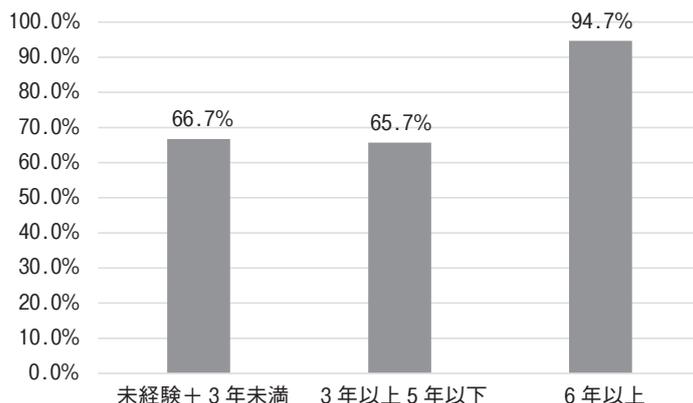


図2 課題18曲の全てを習得した者の割合

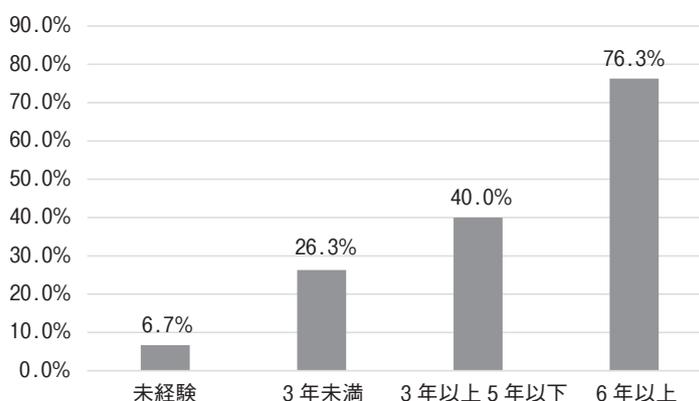


図3 アレンジを習得できたと自己認識した者の割合

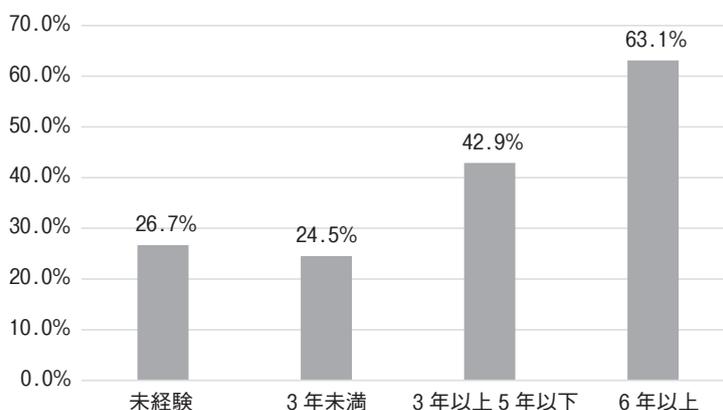


図4 マイナーコードを習得できたと自己認識した者の割合

し、経験者においてはCグループ15名(42.9%)、Dグループ24名(63.1%)であった(図4)。また、全体において「ややできる」「できない」が88名(60.7%)と6割を超えており、理解度が全体的に低かった。これらの結果から、マイナーコードに関するテキスト内容の見直しが必要であることが明らかになった。

4) コード伴奏法を習得する意義について

コードを学ぶことが「歌の伴奏に役立つか」の問

いに対し、「とても役立つ」は110名(75.9%)、「役立つ」は35名(24.1%)で、受講者全員が「コード伴奏は歌の伴奏に有用である」と考えていることが明らかになった(図5)。

4-2 2017年度の考察

本テキストを用いた指導を通じて、受講者はピアノの経験年数に関わらず基本的なコード伴奏法を理解し、コードの三和音(転回形含む)を用いての伴

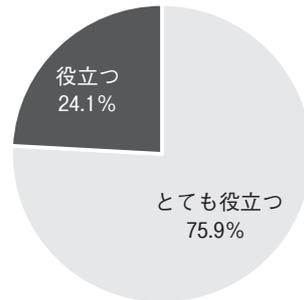


図5 コード伴奏法の有用性について

奏を習得していた。また、ピアノ初学者であっても、そのおよそ7割が18曲ある練習課題の全曲を習得していたことから、本テキストに掲載した一定数以上の曲をこなせることもわかった。これらから、本テキストは、入学して間もない学生であっても弾き歌いにおけるコード伴奏を十分に理解しながら習得し得る内容であることが明らかとなった。

しかしその反面、受講者全体において三和音（転回形含む）をアレンジすることへの苦手意識や、マイナーコードに対する理解が低いことが明らかになった。特に多くの初学者にとっては、アレンジに挑戦することやマイナーコードを理解することが困難であることがうかがえた。

従って、次年度以降に向けての改善案として、2017年度の指導法を軸にしつつ、本テキストのマイナーコード部分の改良やアレンジの指導の工夫を課題とした。

4-3 2018年度の結果

前年度調査結果から得られた課題を踏まえ、2018年度のカリキュラムでは、以下に示す三つの改善策「アレンジする演習の機会を増やす」、「テキスト内容のマイナーコード部分の見直し」、「マイナーコードに関する授業回数を1コマ増やす」を講じた。そ

のうえで、2017年度と同様のアンケート調査を実施した。主に改善策に対する反応を以下に示す。

1) 対象者のピアノ経験に関する状況

前年度調査と同様にピアノ経験年数をA～Dの4グループに分類したところ、次のような結果となった。A：未経験22名（15.0%）、B：3年未満48名（32.7%）、C：3年以上5年以下24名（16.3%）、D：6年以上53名（36.0%）

図6に示すように、前年度と同じくピアノ経験3年未満の初学者が全体の5割弱を占めた。その内訳は、Aグループ（全く未経験）の者が2017年度に比べて増加し、逆にBグループ（経験3年未満）の者が減少していた。対してDグループ（6年以上経験）の者は3割強と、2017年度に比べて1割増しであった。

また、コード伴奏法に対する予備知識・技術について「簡単なコードによる弾き歌い」が、「十分できる」「できる」と回答した者は57名（38.7%）で、「できない」と回答した者51名（34.8%）を少し上回った。授業を受ける前の段階で、コード伴奏法についての知識や技術を備えている者が全体の4割を占めていた。

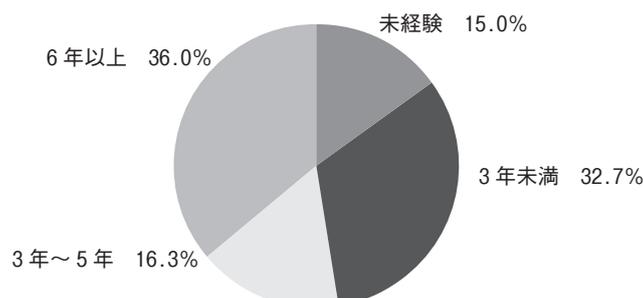


図6 2018年度対象者のピアノ経験年数

2) 発展的な学習について

2)-① コードを使った変奏の習得状況

「コードを見て伴奏を変奏（アレンジ）しながら弾き歌いする」ことが「十分できる」「できる」回答者は、初学者において31名（44.3%）、ピアノ経験者ではCグループ21名（87.5%）、Dグループ53名（100.0%）と、経験年数が長くなるほど増加していた。この傾向は、2017年度も同じであったことから、アレンジの技術はピアノ未経験者にとってはハードルが高く、経験年数が長くなるほど習得しやすくなることが明らかとなった。

また図7に示すように、2018年度（右側棒グラフ）は2017年度（左側棒グラフ）に比べ、「できる」「十分できる」と自己評価する者の割合が全体的に高まった。特に、Cグループ（ピアノ経験3年以上5年以下）では、40.0%から87.5%へと、その割合が2倍以上と大きく飛躍していた。こうした効果は、担当教員が練習課題において、変奏例を自ら示しながら積極的にアレンジに挑戦するよう促して指導し

たことに起因するのではないかと推測する。

2)-② マイナーコードの習得状況

「メジャーコードからマイナーコードに変える」ことが「十分できる」「できる」回答者は、初学者において20名（28.6%）であり、ピアノ経験者においてもCグループ10名（41.6%）、Dグループ36名（67.9%）であった。これらの結果は、図8に示すように前年度（左側棒グラフ）と比較しても大差ないことから、2018年度に試みたマイナーコード部分のテキスト内容の改編やその指導は、学生の習得状況に効果があったとは言えず、アレンジで得られた効果とは対照的な結果となった。

3) コード伴奏法を習得する意義について

コードを学ぶことが「歌の伴奏に役立つか」の問いに対し、「とても役立つ」113名（76.8%）、「少し役立つ」30名（20.5%）との回答から、ほとんどの受講者（97.0%）は、「コード伴奏は役立つ」と考えていることが明らかになった。前年度の調査でも受講者全員が「コード伴奏は歌の伴奏に役立つ」と

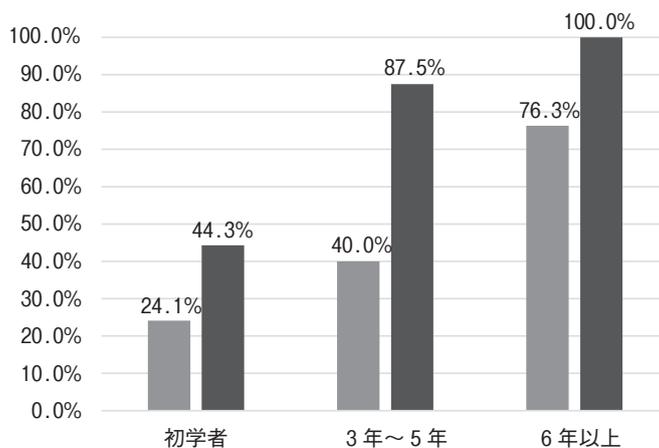


図7 アレンジを習得できたと自己認識した者の割合

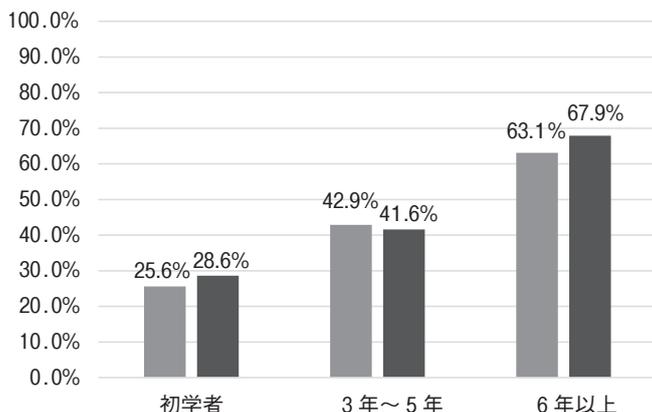


図8 マイナーコードを習得できたと自己認識した者の割合

回答していたことから、コード伴奏はピアノ経験年数に関わらず、広く「歌の伴奏に役立つ」と捉えられていることがわかる。

その理由で一番多かったのは、「難しい伴奏でも、コードなら伴奏付けができる」が74名(51.7%)と半数以上を占め、次いで「レパートリーを増やしやすい」41名(28.6%)、「歌に集中して弾き歌いができる」13名(9.0%)、「自分の好きな伴奏を自由に作れる」12名(8.4%)、と続いた。これらの理由から、「(楽譜通りに伴奏付けをする)弾き歌いは難しい」と捉える学生が多い一方で、将来のために「弾き歌いのレパートリーを増やしたい」と考えている学生も多いことがうかがえた。

4-4 2018年度の考察

改善を試みた結果、コード伴奏のアレンジについては、受講者の習得状況に一定の効果が表れたと言える。対して、マイナーコードについてはあまり変化がみられなかった。その要因については、次のように考える。

テキスト内容を改編した結果、転回形の練習課題を増やすこととなった(譜例6)。実際にマイナーコードは曲の途中で登場するため転回形で弾くことが多いからである。しかし、「マイナーコード=基本形の第3音を半音下げる」を理解し、すぐさまその理論を指に反映させるのは難しい上に、転回形に混乱し、かえって苦手意識を感じる受講者もいた可能性がある。また、授業時間数を1コマ増やす工夫も試みたが、M.L.における一斉授業という運営形態上、指導教員が学生のつまずきを丁寧に汲み取る等、個々の習得状況を把握することが難しい。これらから、特にマイナーコードに関しては、たとえピアノ経験年数が長くコード伴奏への予備知識があったとしても、その進度や学習内容には個人差がある

ことから、指導教員は個々の習得状況を丁寧に汲み取る授業運営を心がける必要がある。

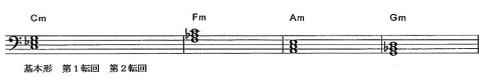
一方、前回の調査結果と同様に、ほぼ全受講者が「コード伴奏は弾き歌いに役立つ」と捉えていた。難しい伴奏譜の弾き歌いに挑戦することも大切な経験ではあるが、保育者養成校に入学して間もないピアノ初学者にとって、原曲による弾き歌いを習得することは、かなり難易度が高い。その点、コード伴奏による弾き歌いでは、受講者の多くが「コード伴奏なら難しい曲でも弾き歌いできる」「コード伴奏で弾き歌いのレパートリーを増やしたい」と反応したように、学習する者の自信や意欲に繋がりがやすいと言える。こうしたことから、保育者養成における、今回採用した方法によるコード伴奏のテキスト内容とその指導は、学習者の自信や意欲を促す有用な手法の一つであると考えられる。

5. 今後の課題

2017年度と2018年度におけるアンケート調査の結果から、作成したテキストと指導内容が習得曲数の増加を推進し、さらに弾き歌いに対する学習者の自信や意欲を促すことに繋がったことが明らかとなった。一方で、マイナーコードの指導に関しては大きな効果が認められなかったため、今後はマイナーコード指導の検討のために学生個々への聞き取りを行い、つまずきの原因を把握することが必要である。また今回の指導では、ディミニッシュコードやオーギュメントコードは紹介だけに留まり、それらを用いた練習課題を行うことができていない。現代の子どもの歌にはディミニッシュコード、オーギュメントコードなども使用され、そうしたコードの響きを子どもたちが聴くことも重要であると考えられる。そのため、今後はこうしたコードの学びを応用的に取り入れていく方法について検討していくことも課題の一つとしたい。

2018年度のマイナーコード練習課題

●基本形を転回形にしてみよう



●次のコードを左手で弾いてみよう

1. 基本形で弾いてみよう 2. 転回形で弾いてみよう

① Cm Fm Gm Dm Em Am Bm

② Dm B C G E B♭ Em

譜例6 テキスト内容変更箇所

*本稿の執筆は、1と5を持田、2を高田、3と4を山内が担当した。

引用・参考文献

- 鎌田直美 2015 幼児教育におけるピアノ演奏指導に関する一考察—学生の意識と両手伴奏の試みについて— 近畿大学豊岡短期大学論集(2) pp.67-76
- 紙屋信義、後藤みゆき 2008 ピアノによる子どもの歌伴奏の効果—アレンジによる伴奏法を考える— 東

- 京未来大学研究紀要第1号 pp.67-75
- 木下和彦 2015 子どものうたの弾き歌い指導におけるコード伴奏の有用性—幼稚園教員養成校の教員及び学生を対象とした質問紙調査を通して—全国大学音楽教育学会創立「30周年記念誌」(研究紀要第26号合併号) pp.73-82
- 後藤紀子 2017 『保育表現技術』に添えるピアノ指導法の予備的研究：保育者養成校における音楽指導の在り方の提案に向けて 和光大学現代人間学部紀要10巻 pp.77-92
- 西海聡子、笹井邦彦、細田淳子 2017 保育者養成における弾き歌いのためのコード伴奏法 東京家政大学研究紀要第57集(1) pp.59-68
- 山崎祐子 2017 「スリーコード伴奏法」の導入と成果～豊富なレパートリーのための取り組み 常葉大学短期大学部紀要48号 pp.167-178